



ボランティアでまちを支える

～地域支え合いの仕組み～

はじめに

わが国では少子高齢化が進んでいます。本県も例外ではなく、10年後の2025年には後期高齢者が現在の1.5倍である118万人となる一方、いわゆる「現役世代」は27万人減少すると予測されています。

高齢化の進行に伴い日常生活の支援のニーズは増大していますが、介護保険制度を利用するためには、要介護認定等を受けなければなりません。

◆「地域支え合いの仕組み」とは

県では、地域の住民がお互いに支え合い、介護保険制度などでは対応できないニーズに応える「地域支え合いの仕組み」の普及拡大に取り組んでいます。

この仕組みは、元気な高齢者などがボランティアとして、助けを必要とする地域の方のお手伝いをして、そのお礼を地域で使える商品券などで受け取るものです。

支援が必要な方の「日常生活の安心確保」、ボランティアは「さらに元気に介護を予防」、商品券を使うことなどで「地域経済の活性化」という一石三鳥の効果があります。

この仕組みを実施する団体に対し、県は補助金により立ち上げを支援しているほか、情報交換会や個別訪問による運営のサポートを行っています。

◆「地域支え合いの仕組み」の利用内容等

平成26年度の全実施団体の利用時間数の内訳は、最も多いのが「外出の支援」で41%、続いて「部屋の掃除など」28%、「庭の草むしりなど」12%となっており、「日常のちょっとしたお手伝い」のニーズが非常に高いことが分かります。

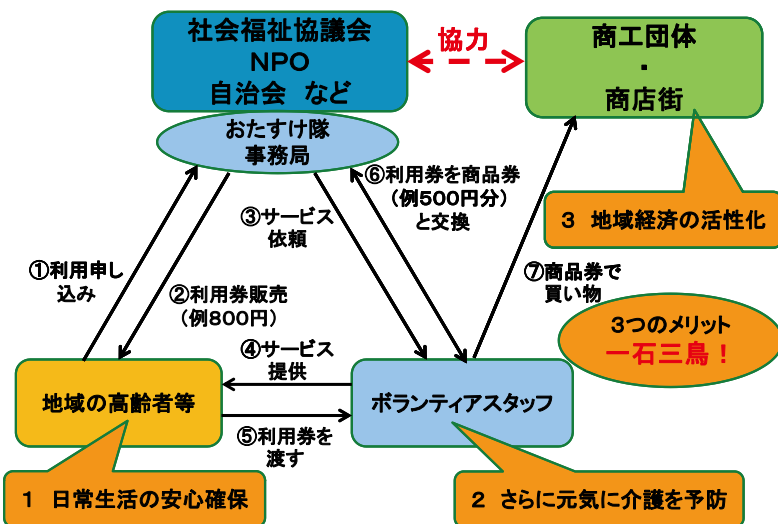
また、平成26年度に補助金を交付した24団体について、ボランティア登録者の年齢別内訳をみると、60代が32%、70代が34%、80代が14%と、たくさんの元気な高齢者の方々が、「支える側」として活躍しています。

◆「地域支え合いの仕組み」の事例紹介

事業名：「優=You&I=愛で地域支え愛事業」
 事業開始：平成22年11月
 コンセプト：あなたのいい顔みたい
 実施主体：NPO法人ふじみ野明るい社会づくりの会

この団体は、1月当たりの利用時間数が2,000時間以上と県内で最も多く、ボランティア登録者数も170人を超えており、多い時には1日に40人程度のボランティアが活動しています。

利用者とボランティアをつなぐ事務局のスタッフも、みんなボランティアで運営を手伝っており、1日につき2～3人が空いている時間で無理なく活動しています。



【地域支え合いの仕組み 実施例】



また、ITに詳しいスタッフが利用者とボランティアの登録やスケジュールを管理するシステムを構築し、スムーズな運営を行っています。



依頼の電話に対応する事務局スタッフ

ボランティアは、単に依頼内容を行うだけではありません。事業名のとおり、利用者のニーズに優しく、たくさんの愛で対応することで、信頼を獲得しています。

利用者はボランティアと話すことも楽しみにしていて、依頼内容よりも話し相手になっ



ボランティアの活動の様子

ている時間の方が長いこともあります。利用者のいい顔が見られるので、支援活動にも力が入ります。

「支え愛事業」に携わる利用者、ボランティア、スタッフみんなが「いい顔」になれる運営のために、ボランティアと事務局が2か月に1回意見交換を行っており、活動の中で感じた疑問点や利用者からの声などについて情報共有と問題解決、意思疎通に努めています。

また、ふじみ野市役所とも良好な関係が築かれ、“支え愛事業”はふじみ野市になくはないものになっています。

※事業の詳細についてはこちらを御覧ください。
<http://www.fujiminosasaeai.com/index.html>



「地域で活かす 私の力 地域デビュー」の紹介

県では、地域の人々やNPO、企業といった様々な主体が共に支え合う「共助社会づくり」を推進しており、今回御紹介した「地域支え合いの仕組み」や日本一の団体数を誇る民間パトロールなど数多くの共助の仕組みを作り、普及・拡大に取り組んでおります。

急速な少子高齢化に対応するためにも、さらに多くの県民の皆様にご参加いただきたいと思います。

しかし、いざ活動しようと思っても、「きっかけがない」「何をすればいいのかかわからない」という方も多いと思います。

そこで、特に現役世代や退職を控えた方々を対象に、実際の参加につなげるきっかけとして、冊子「**地域で活かす 私の力 地域デビュー**」を作成しました。

作成に当たり、埼玉県と「共助社会づくりのための協力に関する協定」を締結した武蔵野銀行をはじめとする8つの金融機関の皆様にご協力いただきました。



詳細についてはこちらを御覧ください。

<http://www.saitamaken-npo.net/html/kyoujyo/27sasshi/>

おわりに

私たちの一人ひとりの強みを活かせば、必ず何かできることがあります。住み慣れた地域で、様々な経験やこれまでに培った技術、人脈などを活かして地域で支え合う「共助の活動」に参加しませんか。勇気を出して、地域社会に一步踏み出し、絆を深めていきましょう。(埼玉県県民生活部共助社会づくり課)